

緑地協定代表委員会から提案 もう一度、シンボルツリーを植えましょう！

最近、シンボルツリーが欠落したままのお宅が増えていると思いませんか？  
緑地委員会の3年前（平成28年）の11～12月の調査によれば、柏ビレジ約1600戸の内、150戸程のお宅がシンボルツリーが欠落したままになっています。その原因を考えると、やはり高齢化により、落ち葉の清掃や剪定などの作業が困難となりつつある現実があります。

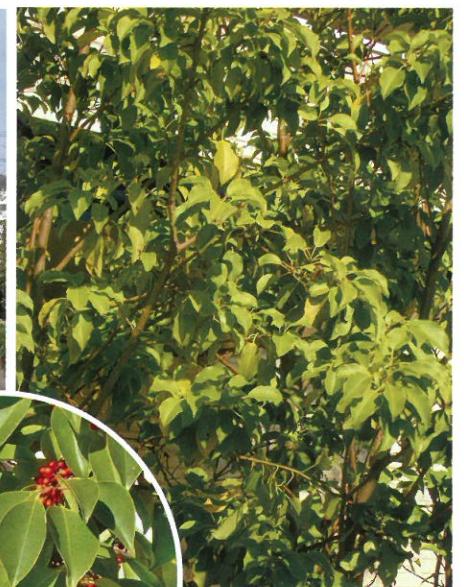
そこで提案です。シンボルツリーとして指定されている樹種は、モクレンやハナミズキ等、10種ですが、この内、冬でも葉を落とさない常緑樹のひとつがソヨゴです。ソヨゴという名前は「風で葉がそよぐ」様子が由来となっており、6月頃、白い小さな花を咲かせ、秋には赤い実をつけますが、漢字で「冬青」と書く通り、その葉は冬でも鮮やかな緑です。

普通の「一本立ち」と根元から数本の細い幹に分かれる「株立ち」がありますが、株立ちの方が高さを抑えやすく、またそよそよと風が通りぬける時の感じが爽かです。 ソヨゴは成長が遅く、半日陰を好み、シンボルツリーにも適していますが、やや難点は雌雄異株であるという点です。

緑地委員会の事業のひとつに、シンボルツリーの枯れ死や巨大化に対する補助金の交付があります。シンボルツリーの植替えの場合、お住まいの面している通り毎に統一された樹種に植替えて頂くのがまず第一ですが、ソヨゴも、一度、検討されてみては如何でしょうか。その際、ぜひ、補助金をご活用下さい。(緑地協定代表委員会副委員長 柴田)



統一されたシンボルツリー  
しかし…



ソヨゴの樹形



冬でも鮮やかなソヨゴの葉と赤い実

- シンボルツリー(各門扉横)の植替え
    - ・枯死の場合:2万円を限度として費用の2/3を補助
    - ・巨木化(幹の直径20cm以上)の場合:3万円を限度として費用の2/3を補助
  - <ご注意>植替えには申請書の記入をお願いしておりますので、事前に各支部の緑地委員までご連絡下さい。

私がお餅つき大会に初めて関わったのは25年くらい前、子供会の役員のときでした。当時はビレジにも子供がたくさんいて、子供会の役員もたくさんいました。前日は、包丁とまな板を持って近隣センターの調理室に集まって、豚汁用の野菜を切りました。当日は、きな粉餅の配布の担当でした。とても風の強い日で、全身きな粉まみれでお餅を配つたことを思い出します。

その後、10年ほどたって今度は自治会の役員が回ってきました。その年は男性役員が少なく、事業部も部長さん以外の5名が女性。チームワークも良く、一緒に買い出しに行ったり、試作してみたり大変でしたが、この時の経験が今に繋がっています。

二度目の役員は支部長でしたが、「お餅つきに詳しい人」の立場で実行委員会にも参加。この年から「サポーター」の制度が誕生し以来、同じくこの年に支部長だった今では、コンビのように言われています。蟹江さんと共に、サポーターとしてお手伝いしております。



お餅つき大会も少しづつ姿を変えてきています。以前は石臼でつく分量の方が多かったのですが、つき手も少なくなって餅つき機でつく量が増え、今では衛生面から配布するお餅は、すべて機械がついたものになりました。そのうち近隣公園のテニスコートの近くにある「石」が臼だとご存知の方も  
**いなくなってしまうのでしょうか。**

よせく　自衛隊が応援に来てくれるようになってもち米を蒸す作業が楽になりました。その自衛隊も今年は日程の都合で来てくださらないとか。その分、切り餅を使って今までになかったお汁粉と磯辺巻きが新たに登場します。実はすでに試食させていただいたのですが美味しかったです。乞うご期待。

私の経験では、お餅つき大会の前後3日間は雨が降ったことはありません。蟹江さんと私は晴れ女なのでしょうか？そんな私たちもそろそろ腰や膝やあちらこちらに年を感じるようになってきました。そろそろ若い方にバトンタッチしたいねと、毎年話しています。今年こそはそうなりたいものです。でも、まずは1月12日、楽しいお餅つき大会になりますように…。

(サポーター 石田睦子)

## 水辺の公園の池のアオコ対策について

水辺の公園は、「柏ビレジ第1調整池」と呼ばれ、今その中に池があります。この第1調整池は大雨が降った際、柏ビレジ内の浸水を防ぐ役割を担っています。通常の降雨(50mm/h以下)では、第1調整池にあまり水は入る事無く、水路を経由して南方の第3調整池へと流れ、第3支部近辺にあるポンプ場から自然流下又はポンプアップにて利根川に放流されます。

一方で、急激な降雨では、池と水路との境の壁を越え池に流れ込むものと、第3調整池までいち早く流れ、自然流下又はポンプアップして利根川に放流するものとに分かれます。しかし、第3調整池のポンプの能力を超えて水が集まってきた場合、別の水路を通って第1調整池まで戻り、そこに一時的に貯めておきます。その後、時間をかけて再び第3調整池に流し、自然流下又はポンプアップし利根川へ放流しています。調整池の大きさやその配置、ポンプの能力などバランスをとった複雑な構造になっております。

そこで、仮に柏ビレジ周辺に降った雨を直接第1調整池に流し込む構造にすれば、夏場に発生する植物プランクトンであるアオコは、雨水と共にポンプ場方面に流され、簡単にアオコ問題は解決されるのではないかと市に確認したところ、直接雨を池に流し込むと、前述したバランスが崩れ、早いうちに池の水位が上がりてしまい、本来の貯水能力が減少してしまうとのことです。すなはち、大雨が降れば洪水の危険性が増すということです。

また、雨が降って、道路のU字溝や下水道管を経て流れてくる水にはアオコの栄養となる窒素やリンが高い濃度で含まれていることがこれまでの調査でわかっておりますので、降った水を池に直接流れ込む構造にしない方が良いとの専門家の考察があり、これまでも自治会側に説明してきたとのことです。

池では、常に水位を低く保つべく、一気に水が流れ込まないような構造になっているので、結果として水が長い時間池に滞留し、アオコが発生するわけです。アオコ発生の大きな要因は、太陽の光・水温・窒素、リン等の栄養分です。アオコは水温が上がる夏場に発生します。雨がたくさん降れば希釈されます。しかし、窒素・リンが供給されればアオコの一旦アオコレベルは下がります。しかし、窒素・リンが供給されればアオコの成長を助長します。これまでの市の調査によって、周辺に降ってU字溝や下水道管を経て流れてくる水も、地下からくみ上げた一見きれいな水も、高濃度のアオコの栄養分を含んでいることがわかっています。

人工池なので元来生息しないはずの数多くの外来種であるコイ・カメも池の底の泥を巻き上げていることもアオコの発生を助長している可能性があります。市は、専門のコンサルタント会社も入れ、自治会と共に過去4年間、夏場に2週間に1回の間隔でアオコ発生状況のモニタリングを行ってきました。その結果、アオコの発生を抑える最も有望な方法は、冬場に池の水を抜き、天日干しし、底の土に酸素を供給することによって、翌夏のアオコに対する栄養分の供給を抑える方策であるとわかりました。これを「ほし上げ」又は「かいばり」と言います。ほし上げには周到な準備と膨大な費用とが必要です。しかし、効果を持続させるためには、繰り返し行わなければならないという難点があります。

それでも、市はモニタリングを継続し、一定の条件下においてアオコレベル5が1ヶ月を超えて続けば、ほし上げを行う方向で検討に入ると約束してくれました。

アオコレベルとはアオコの見た目の濃さの指標で、0から6まであり、今年は何度かアオコレベル5を観測しましたが、8月の高温で雨の降らない時期においてアオコレベル5が1ヶ月は続きませんでした。第1調整池では毎年夏場にはアオコが発生していますが、自治会の長年に亘り継続している観測では、悪臭を感じたことはありません。

今年初めに、市は7千万円を費やして、第1調整池から第3調整池に繋がる水路と第3調整池の土砂を除去してくれました。これにより第1調整池の水位が下がり、洪水対策の改善となっていますが、アオコ抑制にも繋がっているのではないかと期待されています。

で白石云が行って来ましたが、客觀性を担保するため、来年以降は市が行うことになりました。自治会では、この市のデータ収集に同行すると共に、アオコ発生の一因ともみられる外来種のコイ・カメを除去することについて、引き続き市と折衝してまいります。(副会長 刑部)

## お知らせ：弔慰金改定について

11月の役員会にて、弔慰金額の変更が承認されました。2020年2月1日から適用されます。  
弔慰金の支払い金額の変更:(旧)世帯主 10,000円、それ以外 5,000円、(新)一律 5,000円